

映画「アイヌモシリ」完成披露上映会

《 会員先行販売10月12日（月）～18日（日）午前9時開始 》

当日券の販売はありません。



・日時/11月1日（日） 開場15：15 上映16：00
終了18：25（予定）

※上映終了後、トークセッションを予定しています。

- ・会場/だて歴史の杜 カルチャーセンター 大ホール
- ・入場料/一般 1,000円、高校生以下 500円
- ・座席/全席指定
- ・会員の皆様には、カルチャーセンター窓口で先行販売します。
(※個人会員様はお1人様2枚まで。法人会員様は4枚まで。)



※一般発売は10月20日（火）からです。

<コロナ対策>

- ・入場チケットの裏面には、お名前・住所・電話番号をご記入ください。
- ・マスク着用をお願いいたします。
- ・未就学児の同伴・入場はご遠慮ください。
- ・車いすをご希望の方はお問合せください。

《物語》

阿寒湖のアイヌコタン（集落）を舞台に、アイヌの血を引く14歳の少年の成長を通して、現代のアイヌ民族のリアルな姿を映し出している。

力強い、眠差しが印象的な主人公・カントを演じた下倉幹人のアイデンティティーにゆれる等身大の役どころに注目。

その他、主要キャストも現地に住むアイヌの人々が務め、カントの父の友人デボに紛するのは、阿寒に暮らし多岐にわたる活躍をみせる秋辺デボ。アイヌの伝統を重んじるデボ役を体現している。

カントを優しく見守る母のエミ役は、下倉幹人の実の母親でミュージシャンの下倉絵美が担当した。

《監督・脚本/福永壮志：プロフィール》

北海道伊達市出身。2003年に渡米し、2007年にニューヨーク市立大学ブルックリン校の映画学部を卒業。2015年、長編映画デビュー作『リベリアの白血』(原作：Out of My Hand)が第65回ベルリン国際映画祭のパノラマ部門に正式出品される。同作は、モントリオール世界映画祭に出品され、ロサンゼルス映画祭で最高賞にあたるU.S. Best Fiction Award、サンディエゴ・アジア映画祭で新人監督賞を受賞。翌年には、米インディペンデント映画界で最も重要なアワードショーの一つ、インディペンデント・スピリット賞のジョン・カサヴェテス賞にノミネートされる。長編映画二作目の『アイヌモシリ』で、カンヌ国際映画祭主催のシネフォンドアシオン・レジデンス、NHKサングラス脚本ワークショップ、イスラエルのサム・スピーゲル国際フィルムラボに選出される。日米中の国際共同制作として完成した同作は、2020年トライベッカ映画祭のインターナショナル・ナラティブ・コンペティション部門に正式出品され、審査員特別賞を受賞する。

催事・イベント等で大ホールを利用される団体・来場者様に対し、「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(令和2年9月18日改訂)、9/19以降の施設収容人数(伊達市教育委員会)等の方針等を基に、現在カルチャーセンターをご利用される皆様方に、感染拡大防止項目について、ご協力をいただいております。

○基本項目

